

# 牛久：学校周辺に見る自然

第26号 牛久二中

2012年8月16日発行

< エンジュが咲いています。 >

前号と同じく8/9、牛久二中、体育館裏にエンジュが咲き、多数のハチやハエが訪れていました。おとずれ

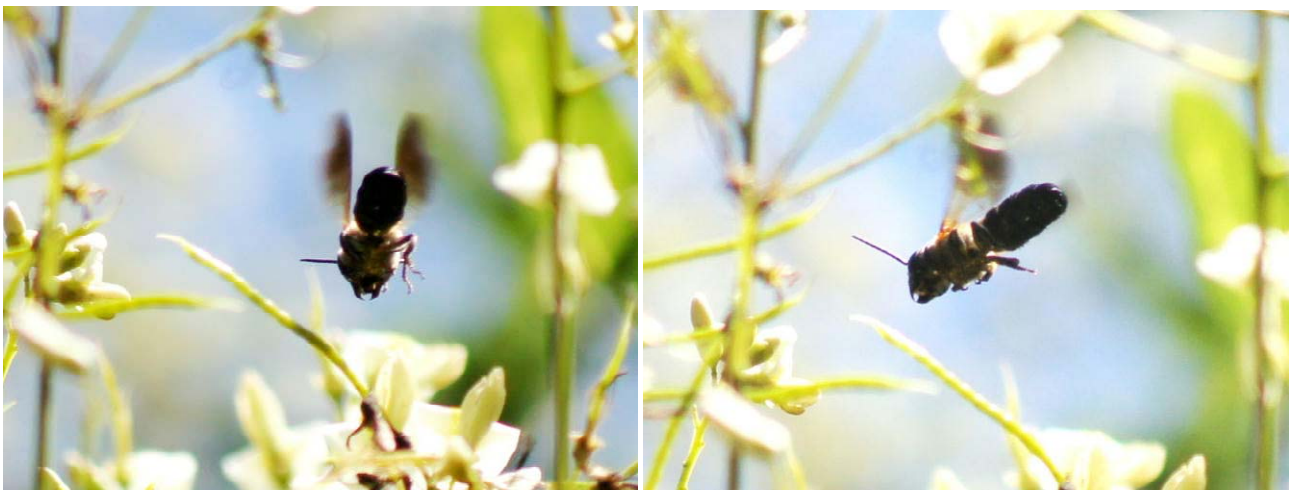


体育館裏に咲くエンジュ（マメ科）と花のアップ。

エンジュは、学名に「日本の」という意味の言葉がありますが、中国原産で、仏教が伝わった頃に日本に入ってきたようです。ニセアカシア（ハリエンジュ）と同じく奇数羽状複葉（きすうじょうふくよう）のマメ科の落葉樹で、花や果実がないと間違えられることもあります（二中のも、名札がハリエンジュになっていてとりかえる予定です）。でも、ニセアカシアとは花のつき方が違うし、咲く時期もニセアカシアが5～6月であるのに対しエンジュは7～8月。また、果実の特徴が全然違うので、秋になったらまた、紹介しましょう。



長い口吻<sup>こうぶん</sup>を伸ばして、みつをなめるツマグロキンバエ(左の写真、左下と右上)とそのアップ(右の写真)。



花のまわりをブ〜んと音を立てて飛び回り、みつを吸っては移動するオオハキリバチ。下2枚はそのアップ。

粒状にみつを出すそうで、オオハキリバチとツマグロキンバエがたくさん訪れていました。ブ〜ン、ブ〜ンとうるさいくらいでした。

【理科支援員：宮内】